

## ●特集／アカデミック・リンク松戸完成記念

Feature Article／Commemorative issue on the completion of Academic Link Matsudo project

## アカデミック・リンク松戸完成記念講演要旨「『つながり』をつくる風景デザイン」

## “Landscape design with ecological, cultural and social connections”: Abstract of the commemorative lecture marking the completion of Academic Link Matsudo project

大野 暁彦

ONO, Akihiko

名古屋市立大学大学院芸術工学研究科

Graduate School of Design and Architecture, Nagoya City University

ランドスケープアーキテクトとして、都市と自然をどうつなぐか。それはただ空間としてつなげるだけでは不十分であり、それぞれがもつ流れや動きを活かしながら「つなぐ」ことが重要である。筆者が日本庭園の研究をしていく中で、人と自然の流れをうまく調和させるためのヒントがたくさん見つけることができた。例えば、群馬県甘楽町小幡にある江戸期の庭園群では、都市インフラとしての水路といきものの棲家にもなる庭園とが両立したシステムが見られた。このような庭園を介した都市水系システムは、長野県松代や福岡県秋月など全国に残る。実際運用する上では、それぞれの住民が利用のルールを破ったり詰まらせてしまったりしたら、成立しない。つまり、このような風景を支えているのは、共同体としてのコミュニティの存在が大きい。このことから、自然と都市とを空間的にただつないただけでは持続的な空間とはいえず、そこには生活や文化の場として共同体の中で育まれていくことで都市と自然のつながりが持続的なものとなるということがわかる。古くからの共同体が失われてきた昨今ではあるが、現代社会ならではの「新しいコモン」により、こうした風景が再構築されるものと思う。

福島県いわき市「クウェート・ふくしま友好記念日本庭園」の事例では、地域で放置された竹林の新たな活用を図った。竹林の整理の中ででた竹材を使って庭園の正面ゲートを作ったのである。このプロジェクトでは、新たなシンボル空間が放置された竹林の再生の中でつくられたという成果にとどまらず、プロジェクト遂行に協力いただいた竹林を所有する神社、切り出すのに協力いただいた地域の方々、竹の加工方法を教えていただいた竹職人の協力など、人と人との関係も再構築できたといえる。

千葉県柏市「ぶるーむの風」の事例では、裸地化していた林床回復を図った。同時に、緑地に付随する障がい児支援施設利用者や散歩する人たちの憩いの場として整備した。林床植生が手に届きやすいところに花や実が付き、ただの雑木林の緑陰というだけではない魅力をつくれたことで、人々の居場所となった。また、鏡や葉っぱ形のサインなどを設置することで、感覚的に森を体験できるようにしたことで、森のダイナミズムを体験できる場とした。

兵庫県神戸市六甲山最高峰トイレの事例では、六甲山系全体で失われつつあるススキを中心とした高茎草原を導入した。同時に、六甲山最高峰トイレ園地として、登山など利用客の休憩場所となるようデザインしている。それは、実施前に分断されていた砂利敷の駐車場と既存斜面林との関係をつなぐ計画であり、既存の自然林とトイレ前に整備した芝生との間に、林縁植生として高茎草本を植栽している。林縁植生は、蛸壺状の形状とすることで高茎草本に囲まれて、人の居場所となっている。

自然の動きと人の動き。それぞれのダイナミズムは異なるものであるが、それぞれの本質は損わずに両立できる空間デザインの可能性を示してきた。これらの空間は、今後さまざまな人に利用されることでそれぞれの地域の「風景」になっていくことができれば、前述した江戸の庭園群にみる「自然」と「まち」、そして「生活文化」のそれぞれのダイナミズムが絶妙に重なり合う空間になるのであろう。

## 参考文献

広井良典, 人口減少社会のデザイン, 東洋経済新報社, 2019